

ヒットブランド の源泉

日本電機産業株式会社

日本電機産業株式会社 概要

本社所在地：大阪市北区堂島1丁目3番18号

代表取締役社長：出水 康祐

創業：1942年

従業員数：120名（令和元年現在）

事業内容：キュービクル（高圧受電設備）の製造、販売

H P：<https://www.nihondenkisangyo.jp/>

沿革：

- 1942年 創業者、出水善吉により発足、制御装置、各種配電盤、操作盤などの製造販売に従事する。
- 1945年 醤油製造会社の依頼を受けて「電気浸透法」を発案する。基礎工事における「電気固結法」や大阪市立科学館の制御盤を開発する。
- 1955年 大林組の仮設現場用変電設備を共同開発し、キュービクルの販売を開始する。
- 1958年 「推奨制度」の規格認定と同時に関東、関西、中部、九州の推奨を取得する。
- 1959年 1964年開通の東海道新幹線用車輪研削装置を開発する。
- 1965年 電気事業法改正に伴い、50KW以上の電力を使う場合は高圧受電が義務づけられて本格的に「キュービクル」の販売を開始する。
- 1968年 キュービクル式高圧受電設備が制定されて、(社)日本電気協会全国推奨制度で当社製品がいち早く認定を受ける。
- 1975年 消防庁告示第7号「キュービクル式非常電源専用受電設備の基準」通達があり、当社製品が第1次認定品を取得する。
- 1977年 業界初のコーナー置き形キュービクルを発売する。
- 1978年 オイルレスキュービクル「ドライ78」を発売する。
- 1980年 省エネタイプのキュービクル「省エネ80Q」を発売する。
- 1981年 簡単に使用電力がわかる「KVAアンメータ」を開発、搭載する。
- 1985年 高圧受電設備指針改定、力率改善「カラー力率計」開発、搭載する。
- 1993年 業界最薄の奥行き75センチの屋外形キュービクルを発売する。
- 1998年 JISC4620「キュービクル式高圧受電設備改定、2000KVA」の認定を取得する。
- 1999年 薄型キュービクルの形式認定を取得する。
- 2004年 規格最大の4000KVまで、全区分の型式認定を取得する。
- 2009年 CO₂排出量が計測できる「マルチメータ」を開発、搭載する。
- 2012年 (一般社団法人)公共建築協会評価書を取得する。
- 2014年 変圧器規格改正によるキュービクル耐震試験を実施する。



「キュービクル」の名称で親しまれているオールインワン高圧受電設備の専門メーカー日本電機産業様は、先進技術のアイデアとオリジナルティ製品では業界のトップランナーと言えます。

昨年、世界文化遺産に認定された百舌鳥古墳、仁徳天皇陵の南東に位置する同社の堺工場で、出水康祐社長、真田智之技術部長、出水悠介常務、堀内大司技術課長にお話しいただきました。

(文中での敬称は略させていただきました。)

先進技術のアイデアとオリジナリティ キュービクルの日本電機産業



中央左…出水康祐社長／中央右…真田智之技術本部長／左…出水悠介常務／右…堀内大司技術課長

創業1942年
特注製品の数々で実績

編集部 御社は現在、キュービクルの専門メーカーとしてブランドを確立されていますが、これまでの経緯や製品のエピソードなどをお聞かせください。

出水社長 弊社の創業は1942年（昭和17年）です。出水善吉が個人の自営でバイソン印のアレスタターや制御盤、操作盤、配電設備、自動遠隔装置等を製造、販売する事業で発足いたしました。

1945年（昭和20年）には醤油製造会社から依頼を受け「電気醸造法」や建設現場で基礎工事の為の「電気固結法」を発案しました。その

後、前回の東京オリンピック（1964年）に開通した東海道新幹線のピット型タイヤ転削盤や遠隔操作盤を製作。その当時四ツ橋にあった大阪市立科学館プラネタリウムの操作盤、調光装置や電源装置の納入など、主に鉄道関連や大型施設向けの特注製品で実績をあげてきました。

キュービクルのパイオニア

編集部 現在の主力製品であるキュービクルはいつ頃から製造されたのですか？

出水社長 1955年（昭和30年）頃に大林組様のビル工事現場で、基礎工事の「時短」の相談を受けた弊社二代目出



水良政社長が、従来に比べて容積は10分の一、価格は2分の一という画期的な仮設現場用変電設備を共同で開発したのがキュービクルのルーツです。まだキュービクルという言葉も無かった時代のことです。

編集部 それほど、当時の変電設備は大きかったのでですね。単純な質問で恐縮ですが、「キュービクル」という言葉の由来は。

堀内 キュービクル（Cubeicle）とは電材業界で呼ばれている通称ですが、もと「立方体」を意味する「Cube」から派生した言葉で、「小屋」「小室」「箱」のことです。

編集部 現在のようにキュービクル專業メーカーとなったのは何時頃のことでしょうか。

出水社長 この時以来弊社では、量産型の受電設備を自社工場内で手掛け、特注メーカーから標準メーカーへと事業

形態を変え、経営の安定化に取り組み始めました。

1965年（昭和40年）に電気事業法が改正され、50kW以上を使う事業者は高圧で受電することが義務づけられると需要が一気に高まったことから、先代出水康博社長（現会長）が拡販を開始し、キュービクル專業メーカーとして名乗りを上げたのです。

電材業界に新風

編集部 ではブランドの確立といえますか、キュービクル專業メーカーの基盤は先代の社長が築かれたものですか？

出水社長 はい。それまで電気設備の販売は「直販が常識」とされていましたが、先代出水康博社長（現会長）がそれを覆し、全国に代理店を整備してルート販売を開始いたしました。また、ラジオやTVコマercialを積極的に

展開するなど、当時の電材業界に新風を吹き込みました。

真田 会長は、当時ではまだ珍しかったコンピュータも先駆けて導入し、日本電気協会認定品の取得や新製品開発など電気社会のニーズに、いち早く取り組んできました。新JIS規格による全国推奨制度を他社より早く認定いただけたのは、そういった背景があったからだと思えます。

出水常務 弊社では1976年（昭和51年）から標準品キュービクルに特化したのですが、現在では出荷に合わせた生産体制を組んでおり、営業スタッフによるお客様との現場の声を反映したモノづくりをしています。

日本電機産業のモノづくり

編集部 では、御社のモノづくりの特長といえるお話しをお聞かせ願えますか？

出水常務 社訓にある「勤勉、

感謝、正直」をモットーにした当社の基本思想は、「小さな設備、少ない人数、少ない仕掛け、不良のないリードタイムの短い製造工程を確立することにあります。少数精鋭の小さな会社ですが、注文をいただいてから出荷までのリードタイムの短かさでは、どの企業にもひけをとらない自信があります。

編集部 高品質と短納期を両立させる秘訣はどこにあるのでしょうか。

真田 キュービクルはあらゆる生産、企業活動のもとになるだけに、設計ミスや納期の遅れがあつてはなりません。日本電気協会の厳重な審査に合格した高品質のキュービクルを提供するために、入念な品質管理と工程管理を徹底しています。

1988年（昭和63年）から本格稼働した独自のコンピュータシステムで生産現場でも部品や部材など余剰や不足のないように管理し

ており、可能な限りの納期短縮を図っております。

堀内 当社製品の品質の高さは、各種認定品、推奨品により証明されてきましたが、それも会長が時代の流れを先読みして、他社に先駆けて新技術の導入や製品開発をしてきたことによるものです。

営業スタッフもCADで図面製作

出水社長 弊社がお客様から高評価をいただいている短納期対応、見積もりや図面の提出が早いことも特長といえます。というのも、弊社では営業スタッフがモノづくりの一翼を担っており、自動作図システムやCADを操って図面製作を行い、工程管理にも携わっているからです。現場での要望に、その場で応えられる営業スタッフの育成や專業メーカー独自のノウハウがあることで、難しい仕様や納期でも「日本電機産

業ならなんとかなる」と言われて注文をいただいているのも事実です。

出水常務 そして弊社には会長の「愛社精神」が貫かれており、家族的な協働組織でチームワークを発揮し、お客様ソリューションに対応しているのも特長といえます。

◇
編集部 最後に、本誌読者の電材卸店の方へメッセージをお願いします。

出水社長 キュービクルは成熟した製品と言われますが、既設のリニューアル需要などが今後も見込まれます。我々の使命は、標準 + α の商品・仕事で社会に貢献し、お客様の現場の問題を解決することだと考えています。

日本電機産業は、今後とも仕事のスピードと正確さを更にあげて、電材業界の皆様のお役にたてるように懸命に努めてまいります。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

充実の社員教育とCSR活動

社員教育に特に力を入れている日本電機産業では、新入社員は、全員がモノづくりの現場を経験します。

なかでも、営業スタッフは、生産現場から設計、コンピュータ(CAD)管理にいたるまで、1年間みっちりと技術経験を積んでからお客様に対応するようにしています。

『鉄は熱いうちに打て』のことわざ通り、社員には入社1年目で人としての基本と基礎技術を身につけて欲しいと思うからです。そのうえで先輩と同行し、「知識と知恵」を学び、お客様と一緒に現場へ向かいます。(出水社長)

また、同社では地域や社会に貢献するべく、定期的に工場見学受け入れや、近隣からの人材採用を

積極的に行っています。

さらに、工場近辺の道路清掃や自然環境、緑木の保護なども行ない、製品梱包材のリユースや工場内の照明器具のLED化といった設備の改良改善でも省エネ、省電力に積極的に取り組んでいます。



増設・改修工事の省力化に VCBユニット

—日本電機産業の—

イチ押し!

ICHIOSHI

ご紹介

増設・改修工事を行う場合、現場によっては長い作業時間がとれません。そんな時、VCBユニットならそのまま盤内に組込むだけでOK。作業時間の短縮にもってこいです。盤間口が680mm以上ある盤でしたら簡単に組込めますので、ほとんどのキュービクルに使えます。



特長

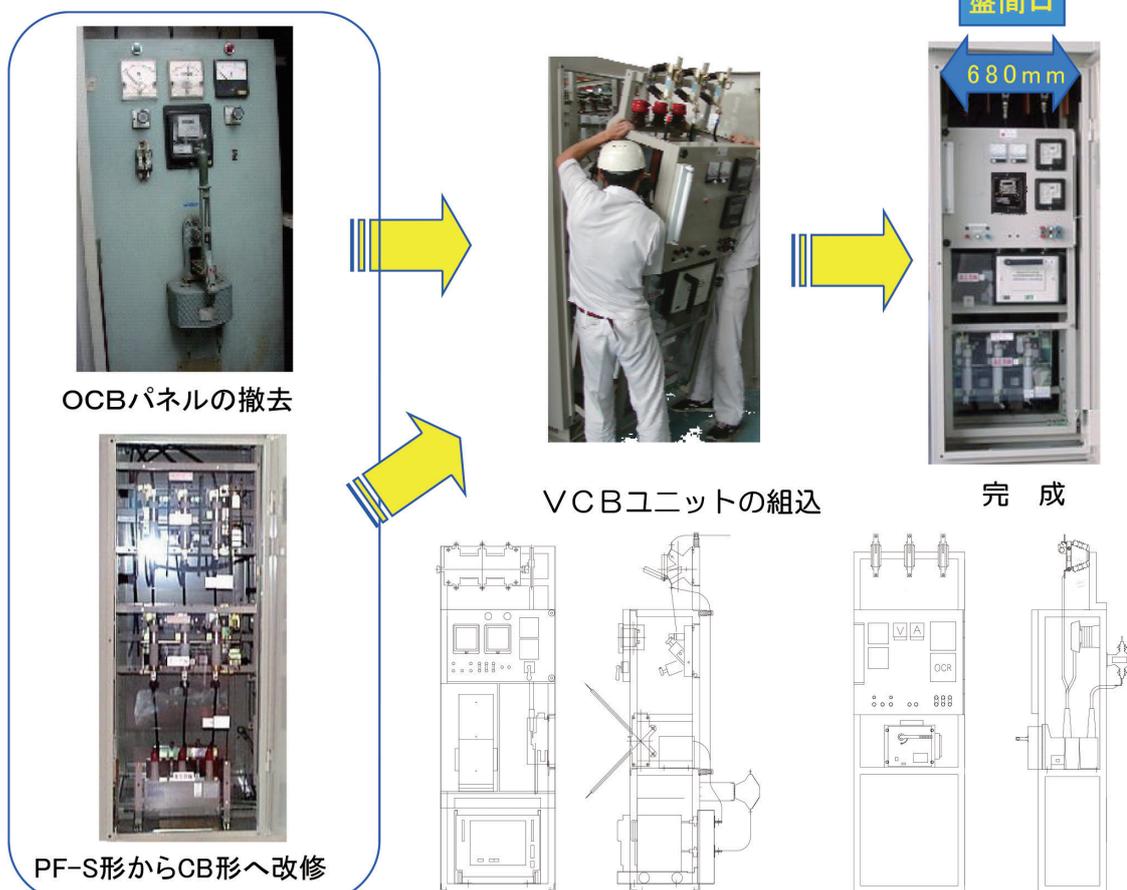
1. 安心・簡単工事

- ▶ 入出力の高圧線を接続するだけの簡単設置。
- ▶ 面倒な保護継電器や計測類の接続も不要。
- ▶ 組込前に計器試験などもできる。
- ▶ 短時間で改修が行えます。

2. 省スペース

- ▶ 開口部670mmで取付簡単。
(DS, VCB, VT, CTなど組込配線済み)

- #### 3. 下段に コンデンサ回路用 LBSを取付可能。



アジャストベース



既設キュービクルのリニューアルのとき、
標準キュービクルと外形や基礎穴寸法が異なることが多々あります。
このようなとき、アジャストベースを使用して、この問題を解決します。

